

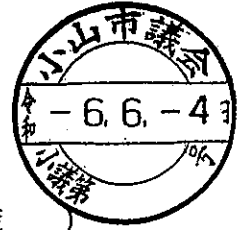
視察調査・研修会等報告書

令和6年5月28日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬 武蔵)



研修・視察年月日	令和 6年 5月 20日(月)～5月22日(水)
研修会場・視察先	① 福島県郡山市:郡山市役所 ② 山形県東根市:まなびあテラス ③ 山形県長井市:長井市役所、旧長井小学校第一校舎
研修名・視察目的	① こども医療費全額回収について ② まなびあテラスについて ③ 旧長井小学校第一校舎の有効活用について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	①郡山市 市民部 国民健康保険課 課長補佐 ■■■■■ 他3名 ②東根市 生涯学習課長 ■■■■■ 他5名 ③長井市 長井市政策推進参与 ■■■■■ 他4名
参加議員(同行者)	関良平、小川亘、福田洋一、篠崎佳之、高橋栄、福田幸平、廣瀬武蔵
調査概要	① 「こども医療費全額回収について」 返納金清算方法の改善 不当利得とは、本人に悪意は無かったが結果として本人が知らないうちに得てしまった利益のこと。 住民サービスの向上、手続きの簡素化、医療費の回収が容易に ② まなびあテラスについて 東根市公益文化施設まなびあテラス。 株式会社メディアゲートひがしねが4例目のPFI事業 以前はさくらんぼ東根駅と併設された図書館を移設 地元の雇用創出効果も ③ 旧長井小学校第一校舎の有効活用について 築90年の木造校舎。 「まなび」と「交流」の活用場所として市民に親しまれている。 平成26年に地方創生として活用を検討するも課題が多く断念。 平成30年に基本計画を策定し実施。 耐震改修工事を経て平成31年にオープン。

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

- ① ・導入前と比べ事務時間が、約1/2に軽減。⇒年間約100時間削減。
・個別処理件数⇒年間約100件が、ほぼ0件に。
・こども支援課での業務量、大幅削減。
上記のように事務手続き等の簡素化で効率的になったとのこと。特筆すべき点は、今回の話は嘱託職員からの提案であったこと。
- ② ・現在8年目。事業期間は20年間。図書館は以前5万冊であったが18万冊に。図書館ではティーンズコーナーが充実。(オリジナルのキャラクターも人気との事)
・市の所有の土地であったところに誘致したことで近隣が発展した。
・ティーンズサポーター35名がボランティアで活動中。
・また美術館も併設されており、当日は「村上康成」絵本作家の展覧会が開催されていた
- ③ ・昔は1600名の児童が通っていた。少子化の流れにより、また近隣の企業の撤退等による人口の減少で廃校。
・検討部会等で沢山の意見を市民から集め、住民の声を反映。
・地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金、登録有形文化財建造物修理事業費補助金、その他クラウドファンディングなども活用。(担当されていた職員は今も参与として市政で活躍)
・校舎には当時のままの材質を使用し趣のある空間を演出。
・ヨガ教室、カフェもあり、視察当日も平日でしたがカフェは賑わっていました。

視察調査・研修会等報告書

令和6年8月9日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬武蔵)



研修・視察年月日	令和6年8月4日 ~ 令和6年8月6日
研修会場・視察先	① 福井県若狭町 福井県年稿博物館 ② 福井県福井市 福井市役所 ③ 富山県高岡市 高岡市役所
研修名・視察目的	① 福井県年稿博物館について ② 小中学校における学力向上のための学校教育について ③ 新高岡駅周辺整備事業について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	①福井県年稿博物館 展示案内委員 ██████████ ②教育総務課 主幹 ██████████ 議会事務局 主幹 ██████████ ③市街地整備係 係長 ██████████ 都市計画課 総務係長 ██████████
参加議員(同行者)	関良平、福田洋一、篠崎佳之、高橋栄、福田幸平、廣瀬武蔵
調査概要	<p>① 「福井県年稿博物館について」 年稿とは、プランクトンや鉄分など季節によって異なるものが湖底に毎年積もることによって縞模様になった泥の地層。水月湖の年稿は世界一の長さ45m。7万年間、毎年途切れることなく積もり続けているとの事。このことが評価され、「世界標準の年代ものさし」とされている。</p> <p>② 小中学校における学力向上のための学校教育について 福井県では毎年、「学力テスト」「体力テスト」で全国上位である。その経緯についても各議員より活発に質問した。その中で感じたことは「当たり前の事を当たり前に行っている」「地域の人々が子どもを見守っている」という点を強く感じた。特別なことをしているつもりはないという担当者の言葉に意識の違いを痛感した。</p> <p>③ 新高岡駅周辺整備事業について 北陸新幹線延線に伴っての新事業。従来の駅「高岡駅」に併設か独立か。ここで大きく舵取りが変わった。後者の独立しての「新高岡駅」として誕生。近隣には大型ショッピングセンターが出店。視察時には大手家電量販店も出店準備をしていた。</p>

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

① 視察当日は夏休みということもあり子ども達も沢山来館されていた。博物館に入るとまずはドーム状のプロジェクションマッピング等で説明を受け、年稿というものに触れることで認識を深めることが出来た。また、建物には県内の資材等を利用していることで親しみも粹施設となっている。しかしながら、最寄駅から遠く、タクシーも1台しかなく利便性が課題だと感じた。今後の本市における博物館にも同様の課題が残る。

② 地域性の違いがあるとはいえ、子育ての環境を整えるのはどの自治体でも大きな課題である。特に、コロナ禍における子どもの環境は大きく変わった。運動能力の低下はまさに顕著である。学力・運動の双方から健全な育成にさらに力を入れるべきだと先進地より学べた。

③ 高岡市では、新駅の設置により市内が分断されているように感じる部分も課題だと感じた。特に昔からの商店街は高岡駅周辺に、新しいものは新高岡駅周辺に…。というような感じであった。本市も東西に分断されている点は留意しなくてはならないと感じた。

な

視察調査・研修会等報告書

令和6年10月21日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬武蔵)



研修・視察年月日	令和6年 10月 9日(水)~10月11日(金)
研修会場・視察先	① 岩手県盛岡市内丸13-1 トーサイクラシックホール岩手 (岩手県民会館) ② 福島県 福島市役所
研修名・視察目的	① 全国市議会議長会 研究フォーラム 主権者教育の新たな展開 ② 特色ある幼児教育・保育プロジェクト
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	こども未来部 幼稚園・保育課 主幹 ████████ 氏 幼保支援係長 ████████ 氏
参加議員(同行者)	篠崎佳之、高橋栄、福田幸平、廣瀬武蔵、橋本守行、嶋田積男、細野大樹
調査概要	・研究フォーラム:主権者教育の新たな展開 ① 地方では議員のなり手不足、また無投票が問題となっている。投票率の低さも問題だ。そこで主権者教育・若者に政治への興味を持って貰う取り組みを各代表者が提言し、成功事例等を交えてパネルディスカッションしてもらった。 ② 福島市役所 特色ある幼児教育・保育プロジェクト 市内の幼稚園・保育園・こども園が特色を出し(サッカー教育に特化していたり、農業に特化したり)子どもの教育に取り入れている。そこに対して新規の案件に関して補助金(1/2、上限 120 万円)を交付して特色を生かしている。

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

① 前回の小山市議会議員選挙においては、他の自治体とは異なり、定数 28 人に対して 38 人が立候補という形ではあったが、決して他人事とはならない、主権者教育・なり手不足の問題。足利市でも次回の選挙から定数削減が決定したと新聞報道を目にした。若者の政治関心を高めるためには同年代の議員が増えることで問題意識を共有できると感じた。また、中学生・高校生の頃から教育し、関心を高める努力をしていくことの大切さを感じた。

② 人口減少は国でも問題視されている。子どもが減るが共働きは増え、預ける場所に困っている話はよく聞く。今回の特色ある教育に関しては、子どもを預けながらも学習塾に通わせているような事業展開がとても魅力的だった。(英会話に特化した園もあった。)

小山市においてどのように活用、浸透させるか更に調査研究していきたい。

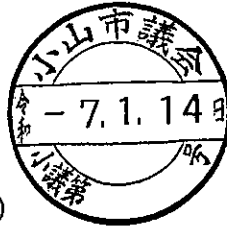
視察調査・研修会等報告書

令和7年1月14日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬 武蔵)



研修・視察年月日	令和7年 1月 8日(水)~1月10日(金)
研修会場・視察先	① 大分県 中津市 中津市役所 ② 宮崎県 延岡市 延岡市役所 ③ 宮崎県 宮崎市 宮崎市役所
研修名・視察目的	① 6次産業化の取り組みについて ② スマートシティ推進事業 ③ 宮崎市議会 DX プロジェクト
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	①中津市産業経済部 商業・ブランド推進課 課長 ████████ 他1名 ②延岡市 企画部 スマートシティ推進室 室長補佐 ████████ 他1名 ③宮崎市議会事務局 議事調査課 政策調査室 主査 ████████ 他1名
参加議員(同行者)	関良平、福田洋一、福田幸平、荒井覚、森田晃吉、廣瀬武蔵
調査概要	<p>① 6次産業化の取り組みについて なかつ6次産業創生推進協議会を設置し、市内の各種組合が平成23年に発足された。【組織・人をつくる】【商品をつくる】【販路をつくる】【生きがいをつくる】この4つの方向性を定め、推進している。商品開発に関しては専任アドバイザーを派遣して支援している。商品売るには物語が必要。との言葉にとっても共感した。 ・地域が輝くこと・生産者が輝くこと・生産物が輝くこと・商品が輝くこと・消費者もよろこぶこと。 この5つの視点には感銘した。</p> <p>② スマートシティ推進事業 延岡市ではスーパーシティ構想準備協議会が令和3年2月に設立。 協議会の構成メンバーには市長をはじめ、東京大学大学院の教授、民間会社などを取り入れ、産学官が一緒にプロジェクトを進めていた。スーパーシティ構想検討会議には107の団体が参画、48の提案が出た。目標として ○都会との教育格差解消○南海トラフ等に備えた「逃げ遅れゼロ」</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>○救急救命率の向上○脱炭素型公共交通システム確立○健康寿命100歳</p> <p>と多岐にわたるプロジェクトが進行していた。上記の分野の各交付金がしっかり採択されている事に各プロジェクトが横断的に意思疎通を取れていることが伺えた。</p> <p>③ 宮崎市議会 DX プロジェクト</p> <p>鈴木一成前議長をプロジェクトリーダーに置き、全議員がメンバーとして改革していた事業。議員の仕事が見えないという市民の声を反映させ活動の見える化に取り組んだ。「みやだん」というアプリケーションを使用し、議会広報では網羅できなかった議員の活動を動画などで紹介。また、市民からの要望などもアプリケーションを介して議員に届くようなシステムになっている。また市民からアンバサダーを選出し、Instagramなどで周知活動を行ってくれていることに感動した。</p>
<p style="text-align: center;">市政の課題等に対し どのように参考になる か、 所感等</p>	<p>① 小山市でもブランド選定など今年度大きく変わっていく。その中で、上記にも記述したが、生産者の思いやこだわりが物語となり消費者に応援したくなるような商品が必要不可欠であることが改めて実感した。中津市の特産品も小山市と同様多岐にわたるため、ふるさと納税返礼品として進める際にはパッケージ化して商品化していくことが必要とのヒントを貰えたことはとても大きい収穫だった。専任アドバイザーには国家資格を有しながら食品フードアドバイザーがおり、時代に合った商品を生産者と共に作り上げている。</p> <p>② 人口で小山市よりも少ない延岡市がこれだけ多くの交付金を利用し、市民サービスに貢献できていることに感動し、また小山市でも国や県とのつながりが必要なことを改めて実感した。ポータルサイトを一元化し、その中には共通商品券やヘルスケアも含まれており、市内の事業所で飲食や買い物をした際に付与されるポイントも貯めることが出来、そのポイントは譲渡することもできるとの優れものだった。また近年注目を集めている「空飛ぶくるま」も導入予定で、ドクターヘリの範囲から漏れている延岡市民には救急救命の一助となることは間違いない。導入されればもう一度視察に行きたいと思う。</p> <p>③ 【まちだん】をいうツールを開発した会社に【みやだん】を依頼し始めたこの事業。議会と市民を繋ぐ、本市でも導入することで距離が縮まる期待がもたれる。特に一般質問後、すぐに撮る「感想動画」。30秒</p>

視察調査・研修会等報告書

	<p>の短いものだが議員の伝えたいことやポイントなどを説明でき、とても面白い取り組みだと思った。議員個人のSNSなどでも引用し、相互的に周知できること。また、市民からアンバサダーを集め、議会に興味をもってもらう取り組みは主権者教育としても革新的であると思った。議会広報委員会のメンバーとして今後検討していきたいと思う。</p>
--	---

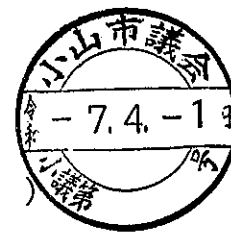
視察調査・研修会等報告書

令和7年4月1日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議員 篠崎 佳之 様

議員氏名(廣瀬 武蔵)



研修・視察年月日	令和7年3月31日(月)
研修会場・視察先	大阪府大阪市北区梅田1-11-4 リファレンス大阪駅前第4ビル
研修名・視察目的	地方議員研究会 ・現場から視る家庭教育支援 ・現場から視る不登校支援
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	公認心理士、MIKURU・MIRU 代表 山下 真理子 先生
参加議員(同行者)	福田 幸平議員、高橋 栄議員
調査概要	<p>・研究フォーラム:主催者教育の新たな展開</p> <p>(1) 現場から視る家庭教育支援</p> <p>・超少子化となり、出生数は72万人。しかし、不登校数は年々増数、複雑化。共働き世帯は1980年で614万世帯だったが2022年では1262万世帯と増えている。以前は女性に求めるのは家事育児能力。男性に求めるのは経済力。現在は男女ともに同様の経済力と家事育児能力であるとの事。近年では子ども家庭庁設置に伴い、各種条例が制定されている。自治体はそのスピードに置いて行かれないようにしなければならないと危惧していた。また民間活力による包括的なサービスも求められている。</p> <p>(2) 現場から視る不登校支援</p> <p>・不登校の定義は年間30日以上欠席。だが、あくまでも基準であり現場に任せているとの事。以前は「学校恐怖症」と認知されていたがその後「登校拒否」となり現在では「不登校」と変わっている。近年では新型コロナウイルスにより、登校に関する問題も複雑化。その数も34万人を超えている。しかし、そのうち11万人が何も指導相談を受けていないとの問題点も。</p>

視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し
どのように参考になるか、
所感等

(1) 例にもれず本県も少子化を辿っている。(合計特殊出生率全国で1.20に対して本県は1.19と全国的にも低い数値である。また、1985年には単独世帯+ひとり親世帯1030万世帯(27.1%)だったものが2020年には2615万世帯(47%)と家族構成も変化している。本市においても今年度は保育分野等が教育委員会に移管されたことで、より手厚いサービスを提案・提供のロードマップを構築することが、「こどもまんなか社会」にとって必要不可欠だと感じた。

(2) 小学生時代を思い返すとクラスに1人いるか、いないか。くらいの感覚であった「不登校児童生徒」。全国で346,482人が不登校となっている。しかし、この数字も実際にはもっと多いのかも知れない。理由の中で「いじめ」の問題も取り上げており、最も「いじめ」の多い学年は小学2年生という事も全く知らなかった。(高学年になるほど陰湿化し表面化しづらい)

また、心の病気にも触れており、講師による設問で2~3項目に該当すると起立性調節障害と診断されるケースがあるとの事で、セミナー参加者の半数近くが当てはまった事にも驚いた。その他にもヤングゲアラーの問題。自殺の若年化。問題は多岐に渡るが、実際に感じたのは一つでも欠けてしまうと未来ある子ども達に大きな壁となり健全な教育を提供することが出来なくなる。それが加速すれば更に少子化が進み、国、県、地方自治体の衰退になることは確実にしてしまう。

小山市においてどのように活用、浸透させるか更に調査研究していきたい。